

2012年度

入学試験問題

社 会

40分

1. 受験番号・氏名を解答用紙に書くこと。
2. 受験番号は算用数字で書くこと。(例:123)
3. 答はすべて解答用紙に記入すること。
4. 配布されたもの以外の下じき・用紙は使わないこと。
5. 用紙を立てて見ないこと。
6. 質問(印刷不明のところだけ)のある場合、鉛筆などを落とした場合、
トイレに行きたくなった場合、気持ちのわるくなった場合は、だまっ
て手をあげること。

文章を読んで、問に答えなさい。

みなさんはどんな食べ物が好きでしょうか。昨年、栄光学園に入学した生徒全員に聞いてみたところ、すしやカレーが上位に入りました。現在の日本ではこのようなメニューをはじめ、さまざまなものを食べることができますが、人々の生活の歴史をふり返っていくと、私たちの祖先がいかに食べるものを生産するために努力してきたかということに気がつくでしょう。人間の歴史はより多くの量や種類の食料を安定的に確保するために努力した歴史でもあるのです。まずここでは、すしやカレーに使われる米について考えてみましょう。

日本列島で本格的に米の生産がはじまったのは、弥生時代のことだと考えられています。米作りは、今から 2500 年ほど前に、朝鮮半島や中国から移り住んだ人々によって日本列島に伝えられました。

(A) 県の板付遺跡からは 2300 年ほど前の水田あとが見つっています。温暖な地域からはじまった①米作りは日本列島各地に広まっていきました。平安時代には、都の貴族や寺社は、農民を使って土地の開墾をすすめました。江戸時代には、幕府や藩は年貢を多く獲得するため②新田開発をさかんに行いました。このようにして日本各地に多くの耕地がきりひらかれていきました。

一方で、同じ広さの土地からできるだけ多くの米を生産するための努力もされてきました。例えば③肥料の工夫を行ったり、米の(B)を進めることによって、より多くの米を収穫できるようになりました。さらに、現在にいたるまで④田おこしや収穫などにかかわるさまざまな農具が開発されています。

問 1 (A) に入る県名を、ア～エから選びなさい。

ア 青森 イ 神奈川 ウ 新潟 エ 福岡

問 2 下線部①について、米作りが広まった土地の支配者や農民は、米作りに欠かすことのできない水の管理を行う必要がありました。このことについてのべたア～エから、間違っているものを 1 つ選びなさい。

- ア 弥生時代、水田の多くは水害を防ぐために小高い丘の上の平地にひらかれた。
- イ 奈良時代、水田に水を引くために、用水路やため池が作られた。
- ウ 室町時代、水田に水をくみあげるための水車が用いられた。
- エ 江戸時代、幕府や藩は村のまとまりを利用して農民に堤防などの工事を行わせた。

問 3 下線部②の新田開発についてのべたア～エから、間違っているものを 1 つ選びなさい。

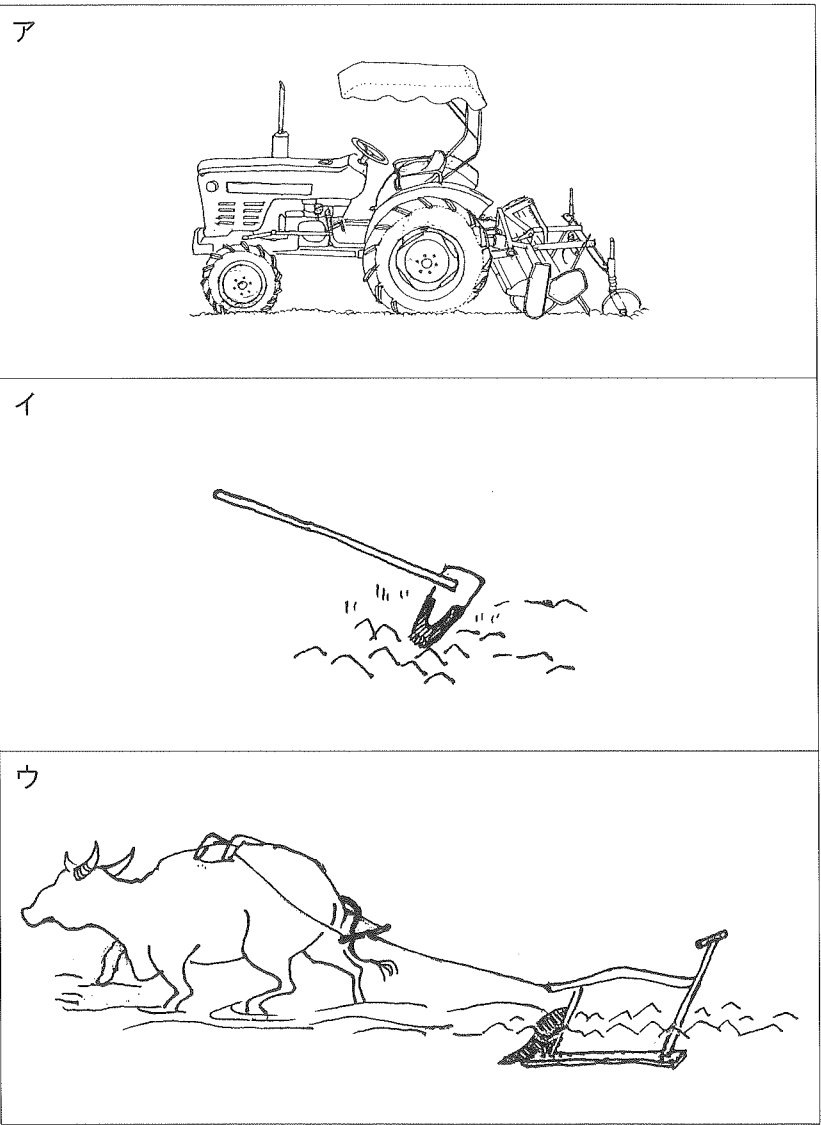
- ア 河口近くや入り江、沼などを埋め立てて耕地がひらかれた。
- イ 大きな河川から遠いところや台地にも耕地がひらかれた。
- ウ 米作りにあった土を川の上流から流し、土を入れかえて耕地がひらかれた。
- エ 幕府や藩の許可を得た農民などによって用水路が作られ、耕地がひらかれた。

問 4 下線部③について、江戸時代に使われた肥料として間違っているものを、ア～エから 1 つ選びなさい。

- ア イワシなどの魚をほしたもの。
- イ 菜種から油をしぼったかす。
- ウ 落ち葉やわらなどをくさらせたもの。
- エ クジラの脂肪からとれた油。

問 5 (B) に入る言葉を、漢字 4 字で答えなさい。

問 6 下線部④について、下の図のア～ウは、田おこしに使われるものです。



（大蔵永常『広益国産考』，歌川国輝「稲の種類」浅井収所蔵，
堂脇昭夫『稲と穀物』をもとに作成）

- （１）ア～ウを，登場した順にならべなさい。
- （２）新しい農機具が登場することで，田おこしの作業にどのような変化があったのか説明しなさい。

つぎに，この約 50 年の日本の米の生産の変化について考えてみましょう。表 1 は，2008 年の米の収穫量が多い上位 5 都道府県について，収穫量と作付面積を 1960 年のものと比べたものです。

表 1 米の収穫量と作付面積

	2008 年		1960 年	
	収穫量 (万 t)	作付面積 (万 ha)	収穫量 (万 t)	作付面積 (万 ha)
全国	882.3	162.7	1285.9	330.8
北海道	64.8	11.5	79.0	19.7
新潟	64.4	11.7	82.7	18.9
(C)	53.6	8.9	54.1	11.8
福島	43.8	8.1	46.6	11.1
茨城	42.2	8.0	45.2	13.2

（農林水産省の統計による）

問 7 (C) に入る都府県名を答えなさい。

- 問 8 1960 年から 2008 年にかけて，米の作付面積が大きく減少したことがわかります。
- （１）これは，政府が何とよばれる政策を進めたからですか。
- （２）この政策がとられた理由を説明しなさい。
- （３）米が作付けされなかった水田では他の作物を作ることがすすめられました。その作物として適当でないものを，ア～エから 1 つ選びなさい。

ア だいず イ 牧草 ウ 小麦 エ さつまいも

問 9 全国の米の作付面積は，1960 年から 2008 年にかけて約 49％に減少しています。これと比べて，上位 5 都道府県では全体としてどのように変化しているか説明しなさい。

表 2 都道府県別の農業生産額にしめる各農産物の割合（2008 年）
単位（％）

	米	畜産 ^{ちくさん}	果実	野菜
全国	22.5	30.5	8.8	24.7
北海道	(D)	49.3	0.6	17.4
青森	20.4	28.7	23.7	22.0
岩手	25.7	52.4	4.9	10.1
宮城	43.9	35.8	1.0	14.2
秋田	59.1	16.3	4.5	15.0
山形	40.7	15.9	22.0	16.0
福島	39.4	21.4	11.0	21.4
茨城	22.4	26.6	3.0	37.2
栃木	27.8	32.9	3.3	28.9
群馬	8.5	41.8	4.3	35.0
埼玉	21.3	15.3	3.9	46.6
千葉	18.4	25.0	4.0	39.2
東京	0.4	7.8	11.5	54.8
神奈川	5.7	22.9	11.4	51.3
新潟	60.1	17.7	3.5	12.4
富山	72.1	13.5	2.5	5.6
石川	54.9	18.4	3.6	16.0
福井	68.2	8.6	2.2	13.3
山梨	8.8	9.4	61.8	12.2
長野	21.9	14.3	21.9	30.7
岐阜	21.2	34.8	4.4	30.0
静岡	9.1	17.1	12.5	26.1
愛知	10.8	26.4	6.3	34.0

（農林水産省の統計による）

さて、米など農産物の生産地について別の見方をしてみましょう。

表 2 は、都道府県の農業生産額のうち、米・畜産・果実・野菜がどのくらいの割合になっているのか、中部地方より東の地域についてあらわしたものです。ここから各都道府県でどのような農業がさかんなのかを考えることができます。

問 10 (D) には北海道の農業生産額全体からみた米の割合が入ります。2008 年の北海道における農業生産額全体の合計は、1 兆 251 億円でした。このうち米は 1255 億円です。(D) に入る数値を、ア～エから選びなさい。

ア 8.6 イ 12.2 ウ 24.8 エ 30.4

問 11 表 1 と表 2 をくらべると、北海道の米の生産についてどのようなことがいえるのか説明しなさい。

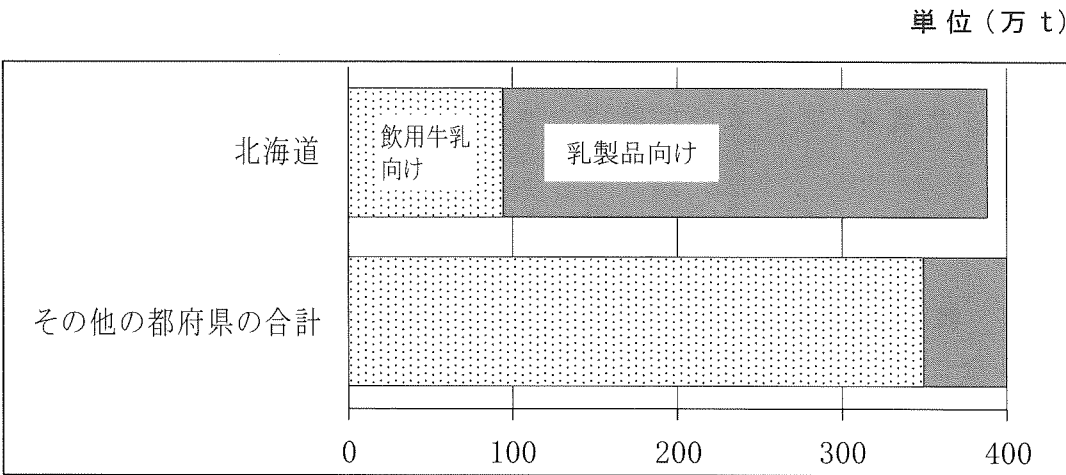
問 12 表 2 からみて、米の生産額が大きな割合をしめる都道府県に共通することを、ア～エから 1 つ選びなさい。

- ア 冬の気候が温暖
- イ 冬の積雪が多い
- ウ 太平洋側
- エ 東北地方の北部

問 13 表 2 をみると、北海道では畜産物の生産額の割合が高いことがわかります。そのなかで生乳（しばったままで殺菌などをしていない乳）の生産額が半分以上をしめます。

下の図は、北海道とその他の都府県について、生乳の出荷量と使いみちをあらわしたものです。

生乳の出荷量と使いみち（2008 年）



（農林水産省の統計による）

（1）北海道から出荷される生乳のうち、飲用牛乳向けの消費について、正しいものをア～エから 1 つ選びなさい。

- ア 北海道でほとんど消費される。
- イ 北海道で消費される量のほうが、その他の都府県より多い。
- ウ 北海道より、その他の都府県で消費される量のほうが多い。
- エ 輸出向けがもっとも多い。

（2）その他の都府県では、北海道と比べて飲用牛乳向けの割合がとても高くなっています。その理由を説明しなさい。

問 14 表 2 のなかには、果実の生産額の割合が高い都道府県がいくつかみられます。それらのうち、つぎの県で生産量が多い果実を、それぞれア～オから選びなさい。

（1）青森県 （2）山梨県

- ア りんご イ みかん ウ ぶどう エ うめ
- オ さくらんぼ

問 15 表 2 をみると、神奈川県では野菜の生産額の割合が高いことがわかります。野菜のなかでも特に、だいこんやキャベツの生産がさかんで、全国の都道府県別の収穫量で上位にあります。神奈川県で野菜の生産額の割合が高い理由を説明しなさい。

問 16 表 3 は、2008 年にキャベツの収穫量が多かった上位 3 都道府県をまとめたものです。

キャベツの収穫量が 1 位の愛知県と 3 位の千葉県は春に収穫が多く、2 位の群馬県は夏に収穫が多くなっています。群馬県で夏に多く収穫される理由を説明しなさい。

表 3 キャベツの収穫量（2008 年）

都道府県名	収穫量 （万 t）	割合 （％）
全国	138.9	100.0
愛知	24.4	17.6
群馬	23.2	16.7
千葉	12.9	9.3

（農林水産省の統計による）

問 17 表 2 の静岡県では、米・畜産・果実・野菜の 4 つを合計しても、約 65％にしかありません。この 4 つ以外で大きな割合をしめる農産物を、ア～エから 1 つ選びなさい。

ア 小麦 イ だいず ウ さとうきび エ 茶

問 18 表 4 は、1960 年の時点で表 2 と同じ項目を全国といくつかの道県についてまとめたものです。表 4 およびこれまでの間をもとにして、各都道府県の農業生産額の内わけについて、この約 50 年の変化のようすを説明しなさい。各道県の変化に共通する点にもふれなさい。

表 4 都道府県別の農業生産額にしめる各農産物の割合（1960 年）
単位（％）

	米	畜産	果実	野菜
全国	47.4	18.2	6.0	9.1
北海道	40.0	18.8	1.7	5.9
神奈川	18.8	29.4	9.3	19.6
新潟	73.0	10.6	1.3	5.0
山梨	21.4	10.1	20.8	7.1

（農林水産省の統計による）

問1

問2

問3

問4

問5

※

問6

(1)

→

→

(2)

※

問7

問8

(1)

(2)

(3)

※

問9

※

問10

問11

※

問12

問13

(1)

(2)

※

問14

(1)

(2)

問15

※

問16

問17

※

問18

※

受験番号	番	氏名
------	---	----

評点	※
----	---